



「**梶原町アピール**」 梶原高等学校2年 川上優希菜 <スピーチコンテスト出場>

Have you ever heard of Yusu-hara? It locates 400m high in the mountain and is surrounded by beautiful nature. In the winter it snows beautifully. you can see many magical stars in the sky. When I was 3 years old, I moved to Yusu-hara and have lived for 14 years. Yusu-hara's people always say「こんにちは」and「今日も頑張ってるね」and I think we are like family. Yusu-hara has a problem of the population but these days, my town has been revitalized by a member of the town hall board of education and Yusu-hara's people. Firstly, a member of the board of education began lending houses to people who moved to Yusu-hara. Secondly, some events are held in Yusu-hara. For example, "Dappan Marathon", "Gorume Food Festival" and "Kagura" are appealing events for sightseers. Kagura is a dance dedicated to Shinto gods. Now, team "Yusu-hara" is also actively part of the Yosakoi Festival. They are very passionate figures when they dance. Yusu-hara's population is decreasing but the amount of sightseers is increasing. If it keeps continuing, I think the population will increase more and more. Thirdly, Yusu-hara is livened up by Yusu-hara's children. They do many things to promote Yusu-hara. For example, the high school baseball club won many games and became popular. Furthermore its group called "Brand 197" creates original food using a local speciality. Also junior high school students made a song called "Yusu-hara" which is incorporates Yusu-hara's four seasons with famous singer song writer Umi. She was born in Hokkaido and moved to Kochi. I believe that the sightseers should become inhabitants of Yusu-hara in order to hold events and revitalized the town. Yusu-hara's people and children try hard to increase the population. Do you want to come to Yusu-hara?

「**よさこい T styleに参加**」 中越博子 <海外留学補助事業 助成金1期生>

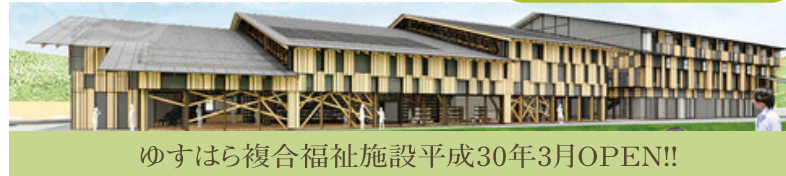
一昨年は地元・梶原町のチーム梶原で踊ったので、せっかく高知市内に出てきたなら、高知市内のチームで踊りたいと思っていました。兄に勧められたチームにするか、友達に誘われたチームにするか、迷っていましたが、結局友達に誘われた T style チームに申し込みました。練習日程を見た時、よさこい本祭の1ヶ月前から練習だったので、完璧に踊れるようになるのか不安でした。それに私はバイトや前期試験があり、毎日練習には出られないことが分かっていたのでよけいに不安でした。練習は毎日すごいスピードで進んでいくので、1日練習に出ないだけで、すごい遅れになりました。しかし、遅れた分はインストラクターが丁寧に教えてくれ、なんとかよさこい本祭までに間に合いました。当日は朝7時半から美容院へ行き、結構派手にヘアメイクしてもらったと思っていましたが、みんなの方がすごく派手で、もう少し派手でも良かったと思いました。高知城、帯屋町、愛宕商店街、上町、万々商店街、菜園場などで踊らせて頂き、テレビ中継のある追手筋では化粧直をして、より気合いが入っていました。天気も良くすごい暑さだったため、外にいただけで汗をかき、タオルで汗を拭いても踊ると汗が流れ高知の夏は暑いと実感することができました。2日間よさこいをやって、とても楽しいと実感できました。後悔残らず終わることができたので、学生生活最後のよさこいに参加してよかったと思いました。また大人になって、よさこいをやる機会があればやりたいと思います。またこの文を通して、たくさんの方が高知によさこいを見に来てもらったり、参加していただければと思います。



隈 研吾氏
ゆすはら未来大使

木材を使うなど「和」をイメージしたデザインが特徴で、「和の大家」とも称され、近年は活躍の場を海外にも広げ、国際コンペでの受賞も着実に増やしており、世界的に注目される日本人建築家の代表である。ゆすはら座の存続事業に関わって以来、雲の上のホテル・レストラン、まちの駅、ギャラリー、梶原町総合庁舎と梶原町のシンボリックなデザインに携わり、梶原町が町内だけでなく国外からも注目されるきっかけを作ったその実績は多大である。

隈 研吾氏デザイン



ゆすはら複合福祉施設平成30年3月OPEN!!



Dear Michi 【龍馬脱藩マラソン完走者】
梶原では高橋さん、來米さん、いちょうの樹の上田さんを始め、町のいろんな方達のお世話になりました。高橋さんには、バス停の最終駅(山中)まで迎えにきていただき、來米さんには今朝、梶原から松山空港まで送ってもらったりと、大変お世話になりました。また上田さんの農家民宿「いちょうの樹」でも、素晴らしいお食事と手厚いおもてなしを受け感激しました。これらの歓待を受けたのは、ひとえにミッチーのお口添えがあったからだと思います。道のりは果てし無く遠かったですが、素晴らしい経験をさせてもらいました。ありがとうございます。それでは、また。 沙田(ハワイ在住)



「**梶原人のこころ**」 梶原高等学校2年 高橋昂寿 <海外留学補助事業 助成金2期生>

ニュージーランドに一年留学し、帰国してから早5か月が経過しようとしております。私の住んでいる高知県梶原町は人口約3600人ほどの山間地、いわゆる「田舎」にあります。帰国してからは新しい感覚で物事が見えるようになってきました。それまでは不便なところぐらいにしか思えていなかったのですが、見知らぬ異国で生活したことで「日本のこころ」が「梶原人のこころ」が分かり始めたのではないのでしょうか。父の友人に昔ながらの「鍛冶屋」を営んでいる方がおられます。父に連れられて遊びに行ったときに聞いた話の中で海外のお客様が近年増えている話を聞きました。最近ではカナダからの方で、ナイフを5本頼まれて送ったということです。この始まりは、そのカナダ人が北海道に友人がおり、狩りに同行させていただいた時に獲物を解体。5頭解体した後に使っているナイフの美しさと切れ味に驚き、6頭目は是非解体してほしいと頼み、代わってもらったところ、まるで紙をカミソリで切るような切れ味に驚き、わざわざ梶原町に来町したとのことでした。今回はそのお礼状を見させていただきました。昔ながらの「鍛冶屋」で、大きな店ではないし、インターネットなどの格別な宣伝もしていない店で、私から見れば小さい時から見ていた農作業の鍬や包丁を扱っているなんでもない店だと思っていたのに世界に門戸を開いている店がここにあったのだと。現に他の国からもオーダーが来ており、注文書の文字が多国籍にわたっているのには驚きました。後でわかったことですが、高知県には「土佐の匠」という認定制度があり、この方は土佐の匠に認定されており、県内産業の基盤を支え、その信仰に貢献している熟練技能や、古くから受け継がれてきた伝統技能の優れた継承者だけが認められている方だったのです。地域を知り、人を知り、産業を理解していないとできないこと。風の香りや土の温かさ、人の苦しみや悲しみ楽しさをすべて理解する繊細さこそ「こころ」ではないかと自分なりに感じ、誇りに思っております。今後私は、今回のカナダから舞い込んだ礼状から、たかが包丁、されど包丁と発想を広げられる様な梶原人のこころを発信できる起業家マインドの高校生になりたいと思い、良い目標ができた嬉しく思っています。改めて留学に協力していただいた皆様に感謝いたします。クリスマスにはニュージーランドでお世話になったファミリーに「梶原人のこころ」のこもった包丁を父に頼んで購入し、送ろうと思っています。



- | 土佐の匠認定基準 |
|--|
| (1) 技能の程度が優れており、全県下を通じて第一級のものとして目されていること。 |
| (2) その技能に関して、概ね15年以上の経験を有し、かつ35歳から65歳までの者であって、将来的にも当該技能への多くの貢献が期待される者。 |
| (3) 現に第一線で活動を行っており、またその活動を通じて、当該技能の普及・振興や後継者の育成に寄与している者。 |



梶原町まち・ひと・しごと